

まとめ

出土している玉作り関連遺物から、金森西遺跡では、緑色凝灰岩製の管玉と滑石製品を製作していることが明らかになりました。今回の調査では工房に直接関係する遺構（竪穴住居、作業用土坑）は検出できませんでしたが、微高地縁辺部の約40m程度の限定された範囲（下図参照）において未成品や剥片などの玉作り関連遺物が出土していることから、このあたりに工房が存在していた可能性が非常に高いといえます。（微高地は後世に大規模に削平を受けているようです。）

湖南地域において古墳時代前期に緑色凝灰岩製品を製作している遺跡は、旧の境川流域の播磨田東遺跡・金森東遺跡（守山市）、辻遺跡（栗東市）に集中しており、当遺跡もその傾向の中で理解されます。出土している石材の大きさや量から、辻遺跡が玉作りの拠点の大規模生産集落と評価されているのに対し、金森西遺跡はそれに次ぐ中規模生産集落として位置づけることができます。

一方、滑石製品を製作している遺跡は湖南地域に多くみられます。当遺跡においても管玉と一部の製品においては製作途中品が確認できることから、他の滑石製品も製作していた可能性が高いと考えられます。

このように金森西遺跡では、緑色凝灰岩製品と滑石製品を生産していたことが確認でき、特に緑色凝灰岩製の管玉は、製作過程や技術の復元が可能な資料が得られました。これは湖南地域の古墳時代前期の石製品の製作のみならず、古墳時代前期のこの地域の集落の動向、他地域との交流のあり方を明らかにするうえでも重要な発見といえます。



緑色凝灰岩製管玉関連石材



滑石製品



滑石製品の未成品



主要遺構概略図 (1/500)

金森西遺跡発掘調査現地説明会資料

平成25(2013)年9月7日(土) / 公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をとおりて
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

調査の概要

公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、滋賀県教育委員会と滋賀県南部土木事務所からの依頼により県道草津守山線整備事業に伴い平成23年度より、守山市の^{かねがもりにし}金森西遺跡の発掘調査を行っています。

平成25年度の調査は、4月から実施しており、古墳時代前期（4世紀頃：約1700～1600年前）の掘立柱建物や竪穴住居からなる集落跡や河川、溝などを確認することができました。

なかでも、集落跡付近の河川や溝からは、完成品だけでなく未成品を含む玉作り関係の遺物が数多く出土しました。湖南地域の古墳時代前期の玉作りの実態を考えていくうえで貴重な成果が得られました。



金森西遺跡



金森西遺跡の位置

調査の成果

これまでの調査により、ほぼすべての調査区で、調査区を横切る河川や溝がみついています。河川や溝の規模は、幅 1.5～4m、深さ 40～50 cm 程度のもので、なかには幅 5m、深さ 1m を超えるものもあります。これらの河川や溝からは多量の土器類や石製品、木製品が出土しています。

また、このような河川や溝に囲まれた中に掘立柱建物や井戸、土坑などがみついています。金森西遺跡周辺では、網の目のように流れる小河川の間の微高地上に点々と集落が営まれていたようです。

出土した土器の年代から、集落の時期は古墳時代前期（4世紀頃：約 1700～1600 年前）であることがわかりました。



調査区を横切る河川・溝



まとめて出土した土器



集落縁辺部の河川で出土した銅製のやじり（銅鏝）



井戸から出土した土器



古墳時代の遺構面の下層から出土した縄文土器（縄文時代後期：約 3,000 年前）



掘立柱建物



橋脚施設の残骸？



掘立柱建物と溝

主要遺構概略図範囲

- = 昭和 52～54 年度調査
- = 平成 23 年度調査
- = 平成 24 年度調査
- = 平成 25 年度調査

0 200m

玉作りに関連する遺物

出土遺物は、古墳時代前期を中心とした土器類が河川や溝から多量に出土していますが、その中で玉類の生産に関わる遺物が出土したことが注目されます。

【緑色凝灰岩製品関連遺物】

緑色凝灰岩製品に関連する遺物は管玉に限定されま^{くだたま}す。完成品、未成品、製作途中破損品、剥片が出土しています。完成品の管玉は長さ 1.5～2 cm で直径は 4 mm、孔の大きさは 2 mm を測ります。出土している未成品もおおむね完成品を想定したサイズのもので多くみられます。

磨いて仕上げる時に欠けたものや、穴を開ける時に孔の位置がずれた失敗品もあり、製作工程を想定することができます。

石材を観察すると、大型の剥片が確認できないことや、管玉が作れるサイズの剥片は執拗に加工を試みていることから、無駄なく石材を利用する意図が感じられます。現在、緑色凝灰岩の産出地が滋賀県内で確認されていないことから、石材の入手が困難で貴重品であったことが理由かもしれません。

【滑石製品】

滑石製品は複数の製品が確認されています。有孔円^{ゆうこうえん}板、管玉、白玉、勾玉、剣形、刀子形、紡錘車です。緑色凝灰岩と比較すると剥片などは少量で、未成品は有孔円板と管玉だけです。

有孔円板が滑石製品の中で数が最も多く、大きさは直径 3 cm 程度の大型品、2 cm 程度の中型品、1.5 cm 程度の小型品に分けることができます。また、中心に 1 孔のタイプと中央に 2 孔あける 2 タイプがみられます。

管玉は完成品が 2 点出土しているのみですが、完成品とほぼ同大の直方体の未成品も出土していることから、滑石の管玉が製作されていた可能性が高いといえます。

※緑色凝灰岩（りよくしよくぎょうかいがん）：グリーンタフともいわれる滑石（かつせき）：鉱物・岩石学的に蛇紋岩や緑泥片岩等に対する総称として使用している